

動物と人が共存できる社会をめざして

特定非営利活動法人とちぎアニマルセラピー協会 理事長 平澤 剛

当会では2015年9月から宇都宮病院様とスタッフの皆様のご理解のおかげで、毎月「地域包括ケア病棟」へセラピードッグを伴って訪問活動を実施させていただいております。セラピードッグたちの訪問は入院患者の皆さんをはじめ、スタッフの皆さんも楽しみにしていただくと伺っています。最近ではセラピードッグたちの訪問に合わせて「重症心身障害病棟」の患者さんが（病棟への立入ができないため）エレベーターホールで待ってくださることもあり、セラピードッグたちの人気に改めて驚きます。

訪問活動を始めたころに比べると医療機関等でのアニマルセラピーの活動は少しずつ広がりを見せ始めています。2019年8月に「東京都立小児総合医療センター」に全国で3か所目になる“ファシリティドッグ※”が導入されたという話題は記憶に新しいところです。他にも「聖マリアンナ医科大学病院」の“勤務犬”、「北里大学メディカルセンター」の“北里メディカルドッグ”など呼び方は違いますが、病院に『常駐』するセラピードッグも増えています。私たちが行っている定期訪問活動も「国立病院機構 宇都宮病院」様をはじめ、同じく国立病院機構の「岩国医療センター」でも取り入れています。当協会でも2019年12月に「自治医科大学付属病院」の緩和ケア病棟からの訪問依頼をいただき、新たな領域での活動が始まりました。

最近までアニマルセラピーの効果は科学的裏付けが少なく「レクリエーション」的な扱いを受けることが多くありましたが、様々な研究や実証データの積み重ねから動物とふれあうことで起こる身体や脳の変化が明らかにされてきています。動物たちは人には真似できない素晴らしい力で私たちの「身体」や「心」に良い変化を与えてくれることが解ってきました。多くの医療機関でアニマルセラピーの導入が進むことで“レクリエーションから治療へ”とアニマルセラピーへの社会的な認識が変わっていくことを期待しています。

一方では動物に対する虐待や殺処分など多くの問題があり、欧米に比べると日本は動物愛護や飼育に対する意識が低いと言われ続けています。私たちはアニマルセラピー活動を通して不幸な動物を減らすため、動物たちの権利を守るため、動物たちのこの素晴らしいチカラを広める活動をしていきます。

人と動物が穏やかに共存できる社会を実現するためにはまだ多くの人々の理解と支援が必要です。これからもセラピードッグ達と私たちの活動のご支援をお願いします。

※ファシリティドッグ（英：facility dogs）は、セラピードッグの一種で、アニマルセラピー（動物介在療法）の高度に専門的なトレーニングを受けたアニマルコンパニオンとして、それを必要とする施設（病院など）に常駐（常勤）するタイプのセラピードッグをいう。（ウィキペディアより）



アイ・コンタクト



ワン（ワン）チーム